

『インターネット講習』による教員免許状更新講習の実践

時井 由花*1・藤井 俊子*2・穂屋下 茂*2
Email: d4075@cc.saga-u.ac.jp

*1: 佐賀大学 e ラーニングスタジオ
*2: 佐賀大学全学教育機構

◎Key Words e ラーニング, 教員免許状更新講習

1. はじめに

本学では、2002年度より e ラーニングで単位が取得できる VOD 型フル e ラーニング（本学では「ネット授業」という）を実施している。また、環境に関する講義も多数開講をしてきた。これらの培ってきた実践経験を基に、2009年度から開始された教員免許状更新講習において、「インターネット講習」として、選択科目『教員のための環境教育』を実施している⁽¹⁾⁽²⁾。

この講習は、受講者の教育対象別に初等教育編と中等教育編があり、環境問題の現状およびそれぞれの問題への取り組みについて講習している。講師は、学内外の環境関係を専門としている教員が担当している。

この内容は大学の教職課程科目としても適しているので、2010年度から佐賀大学の教養教育の主題科目として学生も本講習と同じ内容を履修できるようにした。

本稿では、主としてインターネット講習に関する講義配信や支援体制、受講者の事後アンケート評価も含め、現在までの実施状況や改善点について報告する。

2. インターネット講習とネット授業

インターネット講習は、パソコンとインターネットに接続できる環境があれば、指定された講義日程に従って、場所や時間にとらわれず、繰り返し聴講できるメリットがある。また、講師の時間的な束縛が少ないため、年に複数回開講でき、多くの受講者に対応する

ことも可能である。教員免許状更新講習は、1科目 6回の講義と最終筆記試験で構成されている。講義では、資料の配布、講義の配信や確認問題の提示は、すべて LMS (Learning Management System : 学習管理システム) 上でやっている。ただし、最終筆記試験だけは大学の教室にて対面で行っている。

インターネット講習には、LMS として本学の学生対象科目の「ネット授業」で実績のある Moodle (Modular Object-Oriented Dynamic Learning Environment) を利用した。1回の講義は、30～45分の VOD 型講義コンテンツと確認問題で構成している。最終筆記試験を受験する資格を得るためには、講義コンテンツをすべて聴講し、各回の確認問題をすべて解答しなければならない。最終的な評価は、毎回の確認問題の得点と最終筆記試験の得点の総合評価である。

講習は、講義ごとに配信期間が設定されている。受講者の受講状況は、LMS に記録されているため、定期的にサポートスタッフが未受講者、確認問題未解答者のチェックを行っている。履修状況が悪い受講者に対しては講義の聴講や確認問題の解答を促す電子メールを送信している。

2009年度～2011年度までのインターネット講習受講者の合格率は、平均で約 98%であった。受講を途中で放棄した者も数名いたが、最終筆記試験を受験した者は全員合格をしている。

表1 インターネット講習の改善の経過

実施年度	実施状況および改善点	受講者アンケートの意見
2009年度	(2009年度より開始) ・2回分の講義を1週間内に受講(講義期間全体として4週間) ・最終筆記試験の実施時間:午後 ・講義コンテンツの問題点:Internet Explorer8を使用時にコンテンツが縮小表示になる(対策:eラーニングサイトのHPに揭示)	・1回ごとの配信期間が短い ・最終筆記試験が午後からだど一日がつぶれる
2010年度	・2回分の講義を2週間内に受講(講義期間全体として8週間) ・最終筆記試験の実施時間:午前に変更 ・講義コンテンツの問題点:Internet Explorer8を使用時にコンテンツが縮小表示になる(対策:HPだけではなく受講する講義のページにも揭示)	・配布資料によっては、背景が黒でメモがしづらい
2011年度	・講義コンテンツの改良(上記の問題を解消した) ・講義コンテンツの各項目にチェックポイントを設けた ・学習状況一覧を表示する機能をLMSに追加(より細かい履歴を取得) ・2010年度の意見をもとに、配布資料の変更	・配布資料が多いため印刷量が多い ・チェックポイントがあり、メモがとりづらい
2012年度	・2011年度の意見をもとに、配布資料の変更 ・チェックポイント時における、聴講方法をマニュアルに記載 ・2011年度のLMS に追加した学習状況一覧を表示する機能を改良(未受講者や確認問題未解答者の抽出) ・受講者のページ上に督促メッセージの表示と、電子メールによる送信が可能	現在開講中

3. インターネット講習の改善の経過

2009年度～2012年度までの、インターネット講習の改善の経過を表1に示す。

配信期間の改善点として、2009年度は、2回分の講義を1週間内に受講するようにしていたが、2010年度以降は、2回分の講義を2週間内に受講できるようにした。全6回の講義期間を、全体として8週間と長く設けた。

講義コンテンツの改善点として、Internet Explorer8を使用時に、互換表示モードではない状態で表示すると、講義コンテンツの大きさが正しく解釈されず、実際の大きさより小さく表示されてしまう問題が生じていた。この問題は大学のネット授業も同様であった。

そこで、2011年度からは、上記の問題を解消した講義コンテンツに変更した。その際に、講義コンテンツの各項目にチェックポイントを設け、聴講時にそこをクリックしなければ聴講完了とにならないように変更を行った。このように、一方的な講義配信ではなく、クリックという双方向的な仕組みを取り入れたことにより受講者が各項目の講義内容を確認しながら聴講することになる。そのため、受講者は内容を理解でき、最後まで学習意欲を持ちながら聴講できると考える。

また、システムの改善点として、受講者のアクセス状態や完了状態など、より細かい履歴を取得するために学習状況一覧を表示する機能をLMSに追加し、サポートスタッフの作業効率の改善も行った。また、LMSに追加した学習状況一覧を表示する機能を改良し、受講者の学習状況や学習期間による未受講者や確認問題未解答者を抽出できるようにした。この機能を利用し、抽出した受講者に対して、LMSのメッセージ機能と同じように、受講者のページ上に表示される督促メッセージの表示と、電子メールによる送信が可能となった。2012年度は開講中のため、最終的な結果は得られていないが、この機能によりサポートスタッフの負担の軽減を図った。

4. 実施結果

2011年度のインターネット講習の事後アンケートにおいて、約92%がこの講習を受講し満足が得られたと

表2 インターネット講習実施期間および受講者数

実施年度	開始日	配信期間	教員のための環境教育 (初等教育編)	教員のための環境教育 (中等教育編)
			① 受講者数 (筆記試験受験者数)	② 受講者数 (筆記試験受験者数)
2009年度	1 7月21日～	4週間	19名(19名)	22名(20名)
	2 8月21日～	4週間	10名(10名)	11名(10名)
2010年度	1 6月30日～	8週間	3名(3名)	12名(12名)
	2 9月1日～	8週間	7名(7名)	13名(13名)
	3 12月1日～	4週間	6名(6名)	20名(20名)
2011年度	1 6月7日～	8週間	14名(14名)	21名(21名)
	2 8月23日～	8週間	14名(14名)	17名(17名)
	3 10月25日～	8週間	10名(9名)	15名(15名)
2012年度	1 6月5日～	8週間	4名	2名
	2 8月21日～	8週間	未確定	未確定
	3 10月23日～	8週間	未確定	未確定

※ ①は対象:教諭(幼・小・特)、養護教諭、②は対象:教諭(中・高)、養護教諭

回答した。自由記述において、「インターネット講習は時間や場所を選ばず、何度も繰り返し視聴ができ、大変便利であった」、「受講後直ちに確認問題ができるため、より学習意欲が高まり、復習も十分に行える」、「実践できる内容も沢山あり、今後の学校での授業に役立てたい」などの意見を得ることができた。一方、問題点として、「チェックポイントがありチェックしていると話が十分に聞けず、メモがとりづらい」などの意見があった。2012年度、受講者に講義を聴講しながらメモを取る場合は、一時停止をし、メモを取るようにマニュアルに記載をした。一度の聴講でメモを取れなかった場合でも、講義は何度でも見ることができると、繰り返し聴講しメモを取るように促した。

5. 今後の課題

2012年度はこれまでと比較し、受講者数の減少が見受けられた(表2参照)。これは、インターネット講習は、講義がeラーニングで聴講できても、最終筆記試験が対面のため、受講者は大学の教室に来なければならないことが原因と思われる。しかし、教員免許更新講習受講ニーズ調査(佐賀県教育庁教職員課)の資料を基にした「講習分野の受講意向者数の推計」によれば、インターネット講習のニーズは高いようである。これが、必ずしも実際の申込者数にはそのニーズは反映されていない。インターネット講習の受講者を増やすには、ホームページ上でインターネット講習受講の流れやメリットを受講者に分かりやすく掲示していく必要がある。

本講習およびネット授業でも、受講者より講義の聴講において、パソコンだけでなくタブレット端末や携帯電話で聴講できないかなどの意見もある。インターネットを取り巻く環境の変化は大きいので、こういった受講者の意見を基に、将来的には環境を整えていく必要があると考える。

6. まとめ

教員免許状更新講習において、「インターネット講習」として、教員のための環境教育の初等教育編と中等教育編を実施した。

佐賀大学の教養教育の主題科目として学生も本講習と同じ内容を履修できるようにした。

本講習のテーマである環境教育の内容も、環境問題の現状により変化していく。今後もそれらに対応しながら、講義内容の充実(更新)を図っていく予定である。

参考文献

- (1) 藤井俊子, 時井由花, 本田一郎, 穂屋下茂: “eラーニングで開講した教員免許状更新講習の実施報告”, 2009九州PCカンファレンス in 九州工業大学発表講演論文集, pp.10-11 (2009).
- (2) 時井由花, 本田一郎, 岡島俊哉, 角和博, 藤井俊子, 穂屋下茂: “eラーニングによる教員免許状更新講習『教員のための環境教育』の実践”, 2010九州PCカンファレンス in 長崎大学発表講演論文集, pp.24-25 (2010).